

川 畑 有 郷 (Imperial College) より

垣 谷 俊 昭 (基研) へ

わざわざ二度も御手数をかけました。初めの copy は差出人の住所から見当をつけたらしく、物理の方へもって行った様ですが、少しはおくれたもののちやんととどきました。英国は郵便だけはきちんとしていて信用があり、パスポートや小切手等平気で郵送します。(他はまるでルーズ。英国人が時間や約束にきびしいというのはまるでウソです。)

私の居るのは数学教室ですが、日本流に言えば、物理の人が2, 3講座分ぐらい居るようです。大体が金属磁性の関係で、Professor の Wohlfarth をはじめ、D.M. Edwards, 若い所では Neuns, Jacobs 等が permanent staff, あとは我々のごとき Imperial golo 及び大学院生が世界各国からきています。物理の方は s-d で知られている Rivier, Sherington, March 等が理論の staff です。

物理の方の建物は新しいものですが、我々の居る Huxley Building は 1852 年に建てたという古いもので、階段と廊下ばかりが多く、部室のスペースは外見から考えるよりもはるかに少くなっています。2 年後には新しい建物が出来るそうですが。論講は週 2 回で、火曜日には物理と合同で会食をやります。英国の Professor との会食というとどんなものかと思うかもしれませんが、サンドイッチやフランスパンをかじりながら皆でワイワイやるだけです(特に物理から来るのはさわがしい)。論講では、まだこれと言った話は聞いていません。その他に会食の後でだれかが短い話をすることがあります。先週は Neuns が Paris の Orsay で聞いてきた金属の表面での磁性の話をしていました(彼は表面をやっているのです)。うらやましいのは連中は気軽に外国に出かけてくることです。もっともロンドンーパリが鉄道と船で 6 時間ですから、我々が九州や北海道に行くより簡単なわけです。国内では Cambridge と交流が多い様で Hertz 等よく来ています。

言いわすれましたが、日本人では同じ部屋に岐阜大教養の山田鏑二氏が、又 Cambridge には東大教養の斎藤基彦氏、Oxford には阪大工の興地氏が居ます。興地さんに

海外だより

はまだ会っていませんが、6月末に磁性の Meeting が Oxford であるので会えるでしょう。出来たら（話がわかり、かつ面白い話があったら）その様子等書いておくりま
す。

では又 （1973年5月7日）